

テーマ 12 里親制度（3件）

12-1 【藤里町 50代】

不妊治療に力を入れすぎ。未来の不確定な命の前に、今ある命に祝福を。今、秋田県民として確実に存在している子どもたちは、秋田の宝です。個人として動くのは難しいかもしれないけど、集団ではどうか？町内会や集合で複数人の里親を実施する、とか。私は町のアンケートにも書いたことがあるが、子ども達を町で集団で受け入れることで、関係人口も増えるし、来る方の子ども達も一人ではないから心強いのでは？

文章や表現に問題があるかもしれませんが、一意見として提出します。

12-2 【秋田市 30代】

秋田県の里親委託率向上には周知・登録者増加が必要なのだろうが、里親利用を減らす予防策が一番重要だと思う。

12-3 【大仙市 50代】

県が里親制度に関する普及啓発を行ってきたことは周知のとおりで、里親数や里親委託率も近年増加傾向にあるようです。

そこでこれからは、代替養育を必要とする特に年齢の低い子どもの適切な措置先を検討していくべき時期にきているのではないのでしょうか。

国は特に0～2歳児にあっては、里親・ファミリーホームにおいて特定の養育者との愛着関係の下で養育されることが子どもの心身の成長や発達には不可欠であることを強く示しています。当ホームにおいても0歳から受託した子どもが現在5歳となり、その子どもは自信をもってスクスクと育っています。その様子から国の示す乳幼児期の愛着形成の重要性は至極当然のことと実感しています。

これまでも0～2歳児については、養子縁組を希望する里親への委託は僅かには行われました。しかし、代替養育を必要とする子どもの実親にあっては親権を手放さない親の方が圧倒的に多く、そういった場合、子どものほとんどは施設入所に

なってきました。0～2歳児の養育里親への委託は当ホームを含めこれまでも数件くらいしか聞いたことがなく、ほぼ行われていないのが現状です。里親に委託できずに施設入所になっている理由は数多くあるでしょうが、今後は里親委託ができない理由を検証していくとともに、どのようにすれば、0～2歳の子ども達を里親に繋げていくことができるのかといったことを考えていくべきでしょう。

それには0～2歳児の受入れ可能な養育里親を、本当の意味で育成し増やしていく必要があるのかもしれませんが、例えば、児童相談所が子どもを保護すると受け入れ先をすぐに確保しなければなりません。現状では0～2歳児をいつでも受入れできる「里親と同様の場所」は、県内においてはファミリーホームに空きが少しあるくらいでそれほど多くは準備されていません。

また、子どもをアセスメントする機能も重要でしょうから里親は地域の保健師や医療機関などと連携しながら児童相談所と情報共有する必要があるでしょう。受託後には実親との交流も場合によっては進められることもあるのかもしれませんが、里親宅から家庭復帰する可能性もあります。そういった事象に対応できる養育里親を準備しておくことで、0～2歳の乳幼児にとっての適切な居場所が確保されることとともに、子どもの人格形成にとってもより良い影響を与えることは言うまでもありません。